

結腸・直腸がんの治療成績および有害事象の後ろ向き調査

【研究対象】 2005年1月～2015年4月の期間に、国立がん研究センター中央病院で結腸・直腸がんと診断され、治療が行われた方を対象とします。

【研究の概要】 手術不能・再発の結腸・直腸がんに対しては化学療法がおこなわれ、2005年以降は、オキサリプラチン、ベバシズマブ、セツキシマブ等、新規抗がん剤が数多く承認されています。分子標的薬も多く、治療組み合わせや有害事象も複雑になってきていますが、承認時のデータは主に海外での成績が中心で、近年は日本を含む国際共同試験も実施されているものの、承認時の日本人のデータは十分ではありません。実臨床で結腸・直腸がん患者さんに対する新規抗がん剤の治療成績や副作用の把握が必要であり、それに基づきよりよい治療戦略の開発や副作用対策を検討可能です。

【研究の意義】

結腸・直腸がんの国内での実際の治療効果や副作用について解析することで、治療成績の向上やよりよい有害事象に対する対応などの結果につながる可能性があります。

【研究の目的】

結腸・直腸がんの国内での治療成績や有害事象について解析し、治療成績の向上の方策や有害事象の管理方法について考察します。

【方法】 上記対象患者さんの年齢、全身状態、化学療法内容、治療効果、有害事象などを診療録から調査します。

【個人情報に関する配慮】

診療録の閲覧は個人情報を伴いますが情報収集項目に個人情報は含めません。対象患者の方々の識別は研究目的に特に割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。また、このホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて、患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにします。診療録の利用を希望されない場合は、下記照会先 までご連絡ください。

【照会先】

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院

消化管内科 沖田南都子

Fax 03-3542-3815/ Tel 03-3542-2511(代表)